

大妻女大家政 前川 当子

1. さきの昭和30年、31年10月日本家政学会総会において筆者は家政学の諸問題の発表の中で、適応概念についての試論とその分析を行なった。その後、家政学の本質などについての研究が多数集積され、なかでも家政学の統合概念として適応概念を論ずる諸説をみて、筆者の適応概念の追証としてとりあげ一層その追求をはかることにした。

2. (1) 松平家政学原論との関連
- (2) 家庭生活問題審議会答申との関連
- (3) 第三者的論者の論述との関連
- (4) 筆者の分析と考察

3. 家政学の本質は諸々の基礎科学、隣接科学によってその素材を得て家庭生活を内外諸環境に如何に適応してゆくか——のはじめの理論に積みあげをした。たとえば、経済社会の急速な発達により家庭生活の変ぼうをきたしている現在、家庭生活の新らしい秩序や法則が生み出されなければならないであろう。家庭と社会の接点を求め外の社会に如何に適応してゆくべきか、内的、外的適応。また、人間のエネルギーの効率化、人間の創造性の開発など家庭生活上で培かわれるもの、その家庭生活のあり方など。家政学も各論的に個々に分化した研究が盛んになっている。タテ割りのピラミッドがいくつも林立している。各論の科学が、家庭生活を離れて独走してしまいはしないか。など適応理論の Approach と Grenzgebiet 検討をした。